

**EPSON**  
EXCEED YOUR VISION

# 2012年度(2013年 3月期) 第4 四半期 決算説明会

2013年 4月30日

セイコーエプソン株式会社

©SEIKO EPSON CORPORATION 2013. All rights reserved.

## ■ 将来見通しに係わる記述についての注意事項

---

本説明資料に記載されている将来の業績に関する見通しは、公表時点で入手可能な情報に基づく将来の予測であり、潜在的なリスクや不確定要素を含んだものです。

そのため、実際の業績はさまざまな要素により、記載された見通しと大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える要素としては、日本および海外の経済情勢、市場におけるエプソンの新商品・新サービスの開発・提供とそれらに対する需要の動向、価格競争を含む他社との競合、テクノロジーの変化、為替の変動などが含まれます。

なお、業績等に影響を与える要素は、これらに限定されるものではありません。

## ■ 本説明資料における表示方法

---

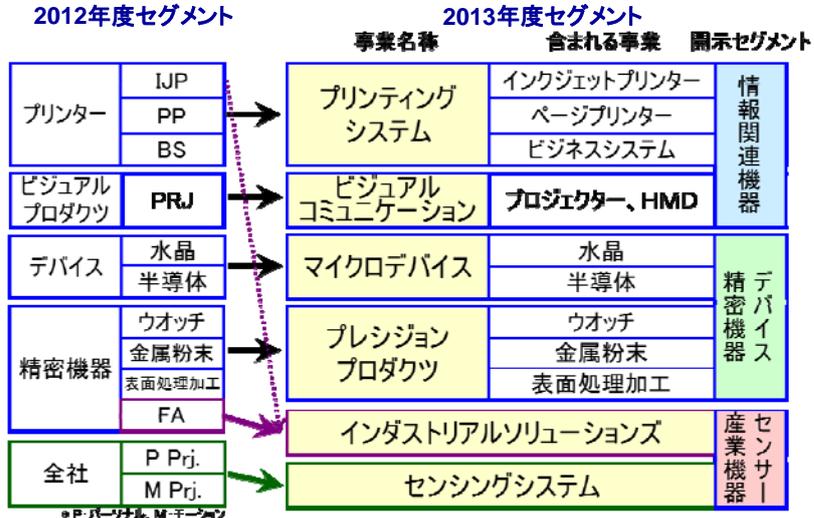
数値： 表示単位未満を切り捨て

比率： 千円単位で計算後、表示単位の一桁下位を四捨五入

## 開示セグメントの変更について



SE15後期 新中期経営計画の事業戦略にもとづき、  
将来にわたっての成長領域を再定義するとともに各領域における取組みを、  
より明確にして加速させるために、2013年度から組織体制を整える



- 2012年度実績は従来セグメントで説明
- 2013年度予想の比較説明においては、2012年度のセグメント損益もあわせて補正

2

## ■ 開示セグメントの変更内容

2012年度通期決算  
2013年度業績予想

2012年度  
第4四半期決算

## 決算ハイライト（通期）



(億円)	2011年度		2012年度				増減額 / 増減率	
	実績	%	1/31予想		実績		前期実績比	前回予想比
				%		%		
売上高	8,779	-	8,500	-	8,512	-	-267 -3.0%	+12 +0.2%
営業利益	246	2.8%	180	2.1%	212	2.5%	-33 -13.7%	+32 +18.1%
経常利益	270	3.1%	160	1.9%	176	2.1%	-93 -34.8%	+16 +10.2%
税引前利益	156	1.8%	△40	-0.5%	△34	-0.4%	-191 -	+5 -
当期純利益	50	0.6%	△150	-1.8%	△100	-1.2%	-151 -	+49 -
EPS	26.22 円		△83.85 円		△56.41 円			
換算 レート	USD	79.08 円	79.00 円		83.11 円			
	EUR	108.98 円	102.00 円		107.14 円			

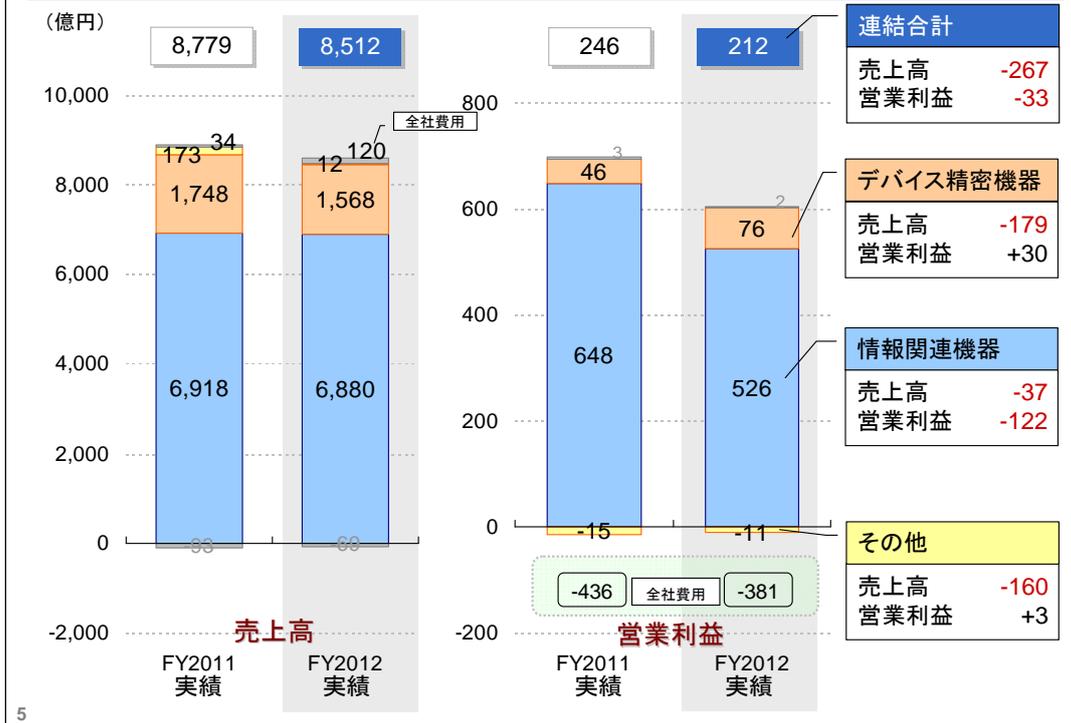
前回予想 第4四半期の予想前提レート  
USD: 75.00円、EUR: 100.00円

4

### ■ 2012年度 通期決算ハイライト

- 売上高は 8,512億円、  
営業利益は 212億円、  
当期純利益は 100億円の損失。
- 1月31日の前回予想との比較では  
売上高は、市場の回復の遅れにより各事業で計画数量未達となったが、  
為替の円安効果もあり、ほぼ前回予想並み。
- 営業利益は、円安効果による利益増加があり、  
業績に連動した費用の増加を差し引いて、前回予想を32億円上回る結果となった。
- なお、前回予想の前提レートベースでは、営業利益は前回予想並み。

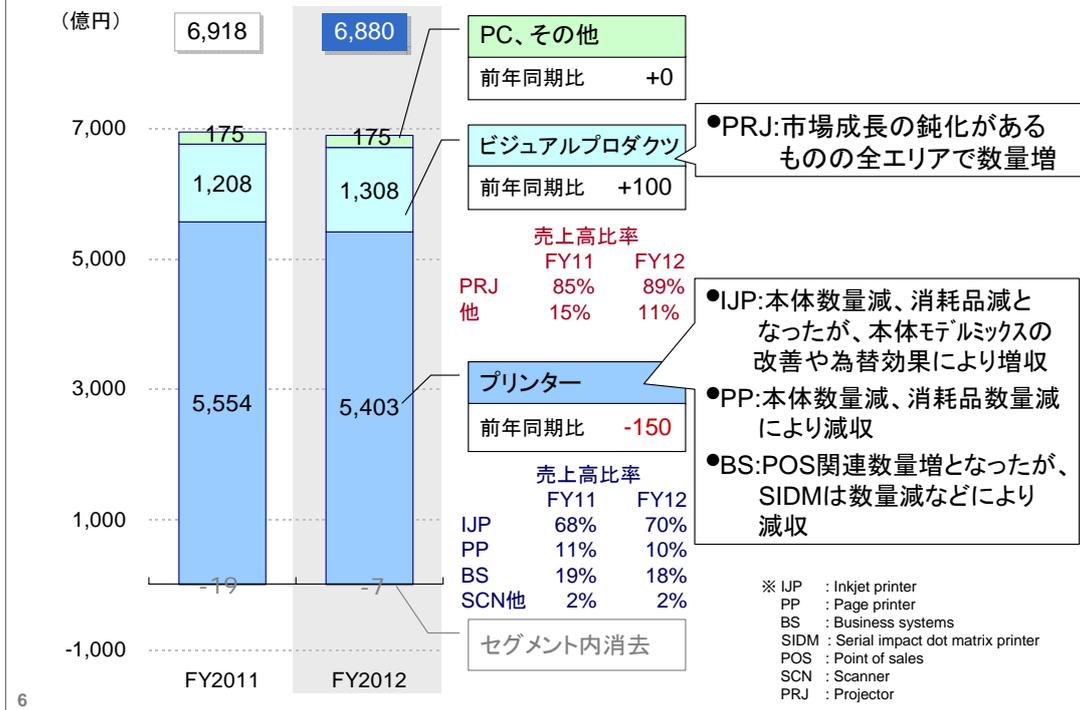
## 2012年度業績▶事業セグメント別



### ■ 2012年度 事業セグメント別実績

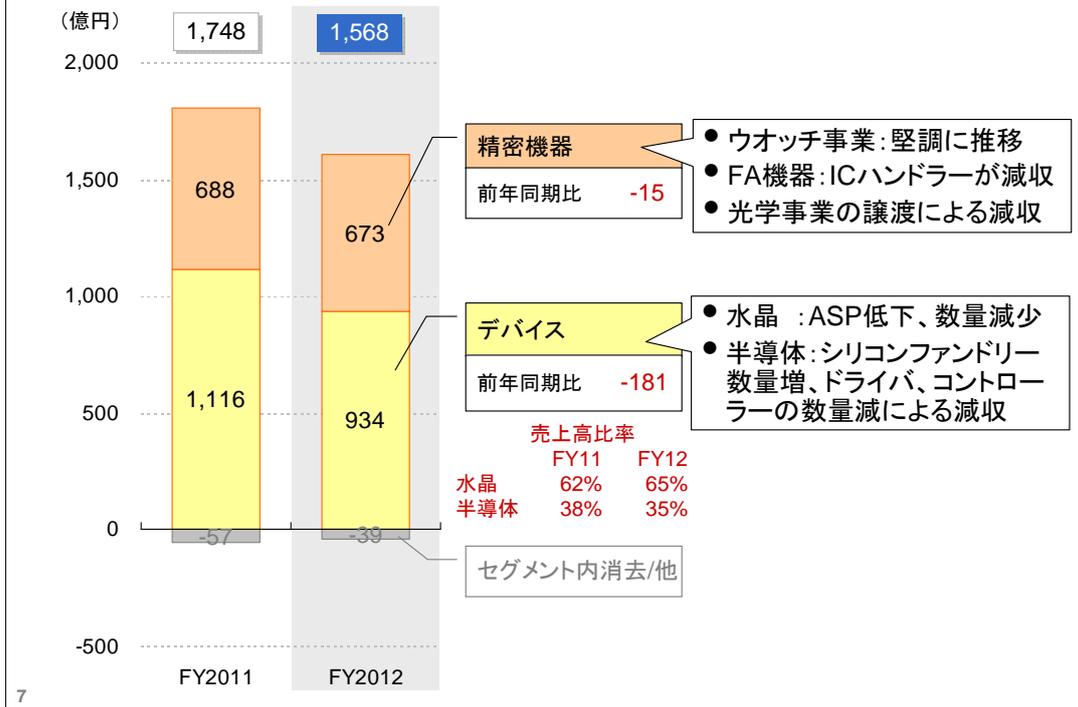
- 情報関連機器は、売上高6,880億円、営業利益526億円、デバイス精密機器は 売上高 1,568億円、営業利益76億円。

# 売上高比較(通期) ▶ 情報関連機器セグメント



## ■ 2012年度 情報関連機器セグメント

## 売上高比較(通期) ▶ デバイス精密機器セグメント



### ■ 2012年度 デバイス精密機器セグメント

■ ポイント

- 戦略面において、着実な進捗
  - ✓ IJP事業におけるオフィス向け、大容量インクタンクモデルの拡大など情報関連機器を中心に各事業でのモデルミックス改善への取り組み
  - ✓ デバイス精密機器の要員構造改革の完遂
  - ✓ センサー産業機器を新規事業分野として立ち上げ
- 通期営業利益180億円を予想前提レート(USD:75円、EUR:100円)で達成
- 在庫削減計画を予想前提レートで達成
- フリーキャッシュフローの黒字化

単位:たな卸資産(億円) / 回転日数(日)					
	2012/3E	2012/9E	2012/12E	2013/3E	12/9E増減
たな卸資産	1,622	1,810	1,790	1,635	-175
回転日数	68	85	79	70	-15

単位:億円			
	前回予想	実績	予想比
営業CF	280	429	+149
投資CF	-430	-395	+34
FCF	-150	+34	+184

新中期経営計画初年度の2013年度に向け、  
着実な一歩を踏み出した

■ 2012年度の総括

## 2013年度 業績予想



(億円)	2012年度		2013年度		増減	
	通期実績	%	通期予想	%	増減額	増減率
売上高	8,512	-	9,100	-	+587	+6.9%
営業利益	212	2.5%	330	3.6%	+117	+55.3%
経常利益	176	2.1%	300	3.3%	+123	+70.2%
税引前利益	△34	-0.4%	230	2.5%	+264	-
当期純利益	△100	-1.2%	130	1.4%	+230	-
EPS	△56.41円		72.67円			
換算 レート	USD	83.11円	90.00円			
	EUR	107.14円	120.00円			

<ご参考> SE15後期 新中期経営計画  
(2013年3月13日発表)

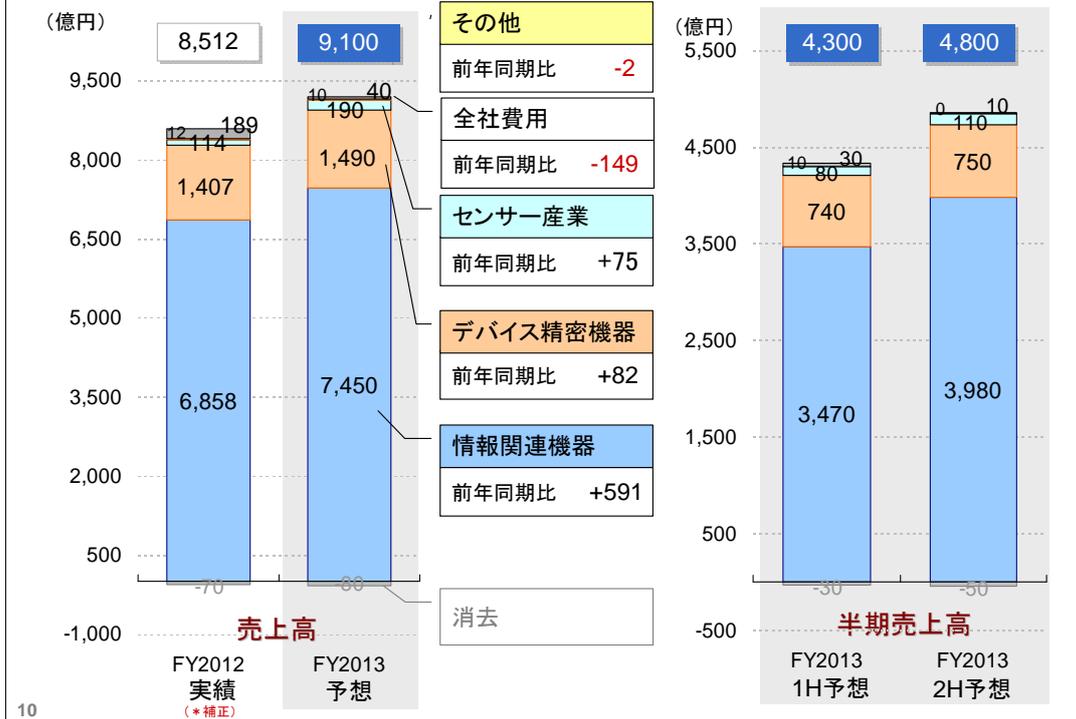
2013年度業績目標  
 売上高 : 8,900億円  
 営業利益 : 300億円  
 (前提レート) USD:85円、EUR:115円

9

### ■ 2013年度の業績予想

- 3月13日に発表した新中期経営計画で掲げた業績目標をベースに、直近の動向を踏まえ、中計で示した為替前提を、USDドルは85円から90円へ、ユーロは115円から120円に見直したうえで、売上高は、前期比 587億円増収の 9,100億円、営業利益は 117億円増益の 330億円を予想。
- また、当期純利益は 230億円増益の130億円と、黒字化を予想。
- セグメント別には、情報関連機器、デバイス精密機器、センサー産業機器の各セグメントにおける着実な損益改善施策の推進に加え、円安効果もあり、会社トータルでは増収・増益を予想。

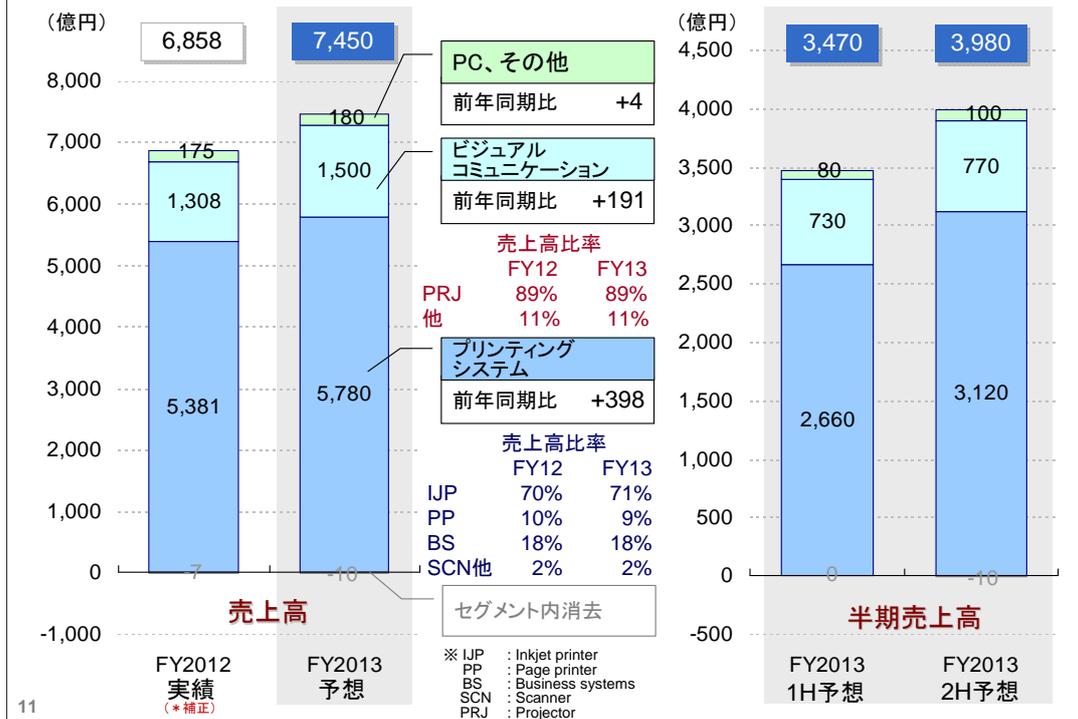
## 2013年度業績予想(売上高)▶事業セグメント別



### ■ 2013年度 事業セグメント別売上高予想

- 情報関連機器は、前期比 591億円増収の 7,450億円を、
- デバイス精密機器は、前期比 82億円増収の 1,490億円を、
- 新しい事業セグメントであるセンサー産業機器は、190億円を、
- それぞれ予想。

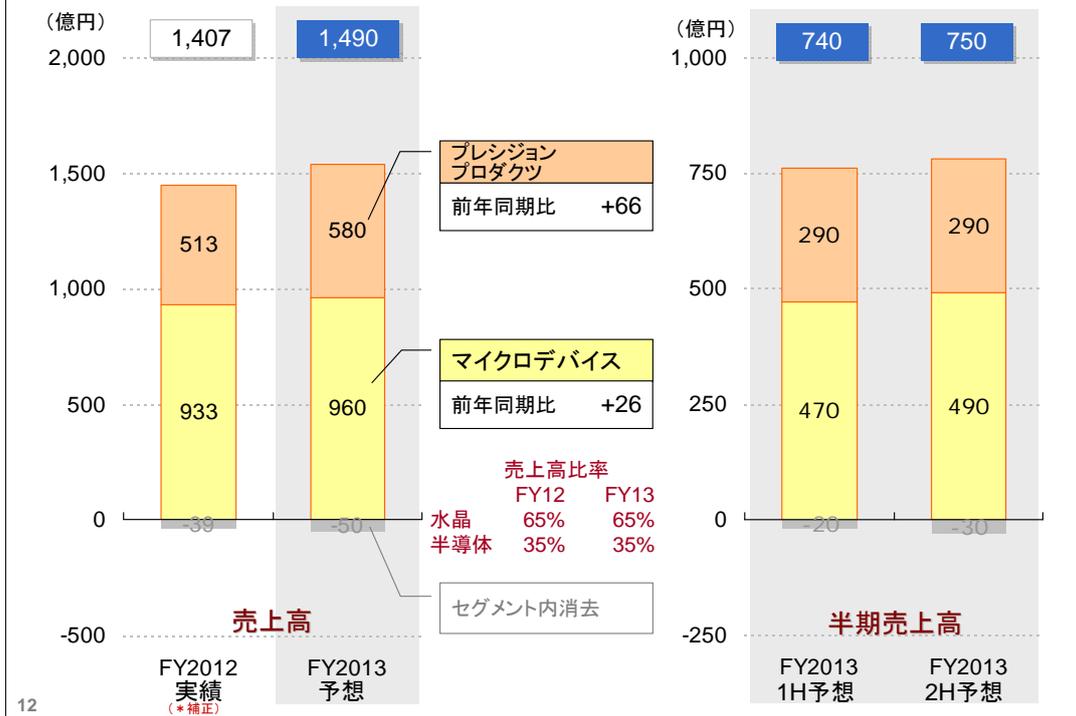
## 事業別売上高予想 ▶ 情報関連機器セグメント



### ■ 2013年度 情報関連機器セグメント

- 最初は、プリンティングシステム事業。
- インクジェットプリンターは、IJP本体はエマージング市場が成長するものの、先進国市場の回復の遅れから、市場全体では横ばいと認識。
- そうした中、当社はプリントボリュームの小さいローエンドモデルの絞り込みにより、本体の販売数量は2012年度比 マイナス5%程度を計画しているが、ホームプレミアム領域のプレゼンス維持、新型ピエゾヘッド搭載モデルを中心にオフィス向けラインナップの拡充、大容量インクタンクモデルの拡大などにより、モデルミックスの改善による増収を計画。
- また、IJP消耗品は、増収を計画。  
3月に説明したとおり、MIF 構成の改善効果により、同一為替レート前提下で消耗品の増収が現れてくるのは、2014年度から徐々に、本格的には2015年度と見込んでいる。
- ビジネスシステムは、SIDMにおいては着実な需要の取り込みを、またPOS関連製品においては既存分野における更新需要への対応と、ノンシートなどの新規分野の開拓に取り組み、増収の計画。
- ビジュアルコミュニケーションは、プロジェクター市場は全般に成長率の鈍化が見られるものの、エマージング市場を中心に5%程度の市場成長を見込んでいる。
- 当社は、オフィス、教育市場でのプレゼンス維持に加え、高輝度分野でのプレゼンス向上に取り組み、市場成長を上回る12%の数量成長を計画。

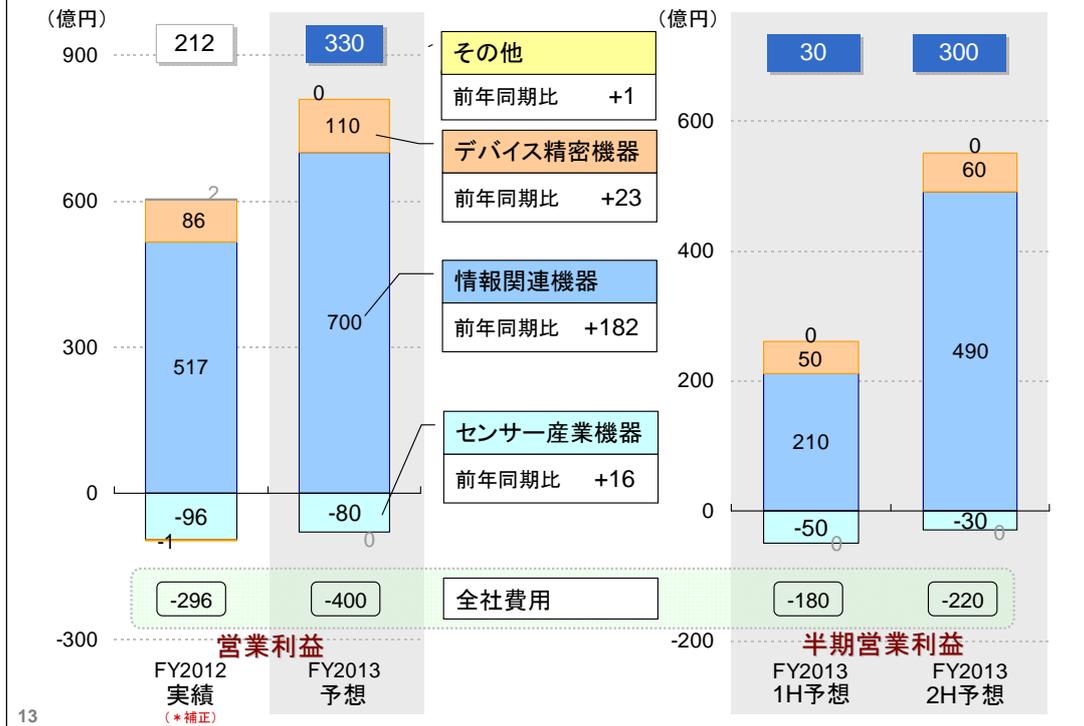
## 事業別売上高予想 ▶ デバイス精密機器セグメント



### ■ 2013年度 デバイス精密機器セグメント

- マイクロデバイス事業は、水晶、半導体ともに、力強く需要が回復する状況にはないが、為替の効果に加え、一部の顧客に明るい兆しも見えていることから、個々の商談を着実に受注につなげるとともに、高付加価値製品の販売拡大をはかり、増収を確保。

## 2013年度業績予想(営業利益)▶事業セグメント別



### ■ 2013年度 事業セグメント別営業利益予想

- 情報関連機器は、前期比182億円の増益を予想。
- インクジェットプリンターは、前年度の2012年度は下期偏重の損益バランスとなったが、2013年度は、年間を通じて、販売価格やモデルミックスの改善、コストダウンへの取り組みなどの施策をたゆまず展開するとともに、消耗品の増収を見込むことから、増益を予想。
- ビジネスシステムとビジュアルコミュニケーションは、増収による増益を予想。
- デバイス精密機器は、前期比 23億円の増益予想。
- マイクロデバイス事業は、要員構造改革の完遂により、売上高規模に見合ったシンプルな事業構造としたので、2013年度は高付加価値製品への取り組み加速などによる増収と、固定費・変動費の削減効果により、増益を予想。
- センサー産業機器は、利益貢献はないが、確実に新規分野の拡大を進めていく。
- 全社費用は、特許料収入の減少などにより、減益を見込む。

「既存領域の転換と新規領域の開拓を両立させ、着実に利益を創出する」

## 情報関連機器事業セグメント

### インクジェットプリンター

- ✓ ホームならびにオフィス向けのローエンドモデルの絞込み
- ✓ ホーム向けプレミアム領域のプレゼンス向上
- ✓ 新型ピエゾヘッド搭載モデルを中心にオフィス向けラインアップの拡充
- ✓ 大容量インクタンクモデルの拡大
- ✓ ラージフォーマットプリンターにおいて、サイネージ向け製品の北米での本格展開、昇華転写テキスタイルの販売拡大



サイネージ向けプリンター  
「Sure Color SC-S30650」



昇華転写テキスタイルプリンター  
「Sure Color SC-F6000」

14

## ■ 2013年度の取組み

- 3月13日に発表した、SE15後期 新中期経営計画の基本方針に基づき、着実に事業戦略を進めていく。
- こちらは、インクジェットプリンター。
- この中で、ラージフォーマットプリンターについては、2013年度も継続的な業績貢献を見込んでいる。
- この3月からは、サイネージ向け製品の北米での本格的な展開を始めるとともに、昇華転写型テキスタイルプリンターも、中国を皮切りにアジア各国や欧州でも販売を開始し、顧客の反応も良く順調に立ち上がってきた。

「既存領域の転換と新規領域の開拓を両立させ、着実に利益を創出する」

### 情報関連機器事業セグメント

#### ビジネスシステム

- ✓ SIDM市場の急激な成長を期待せず、エマージングでの新規需要や、政府系・銀行系の入札案件の需要取りこみにより安定的な収益確保
- ✓ TMはインテリジェント化、インクジェットによるカラー化で従来のレシート市場に加え、ノンレシート市場を開拓
- ✓ 新規用途提案により着実に収益成長を果たす

#### プロジェクター

- ✓ オフィス、教育市場向けの既存市場におけるプレゼンスを維持
- ✓ 高輝度分野でのソリューション提案、販売体制構築・強化により事業領域拡大、収益力強化

#### ■ 2013年度の取組み

- こちらは、ビジネスシステムとプロジェクター。

「既存領域の転換と新規領域の開拓を両立させ、着実に利益を創出する」

### デバイス精密機器事業セグメント

#### マイクロデバイス

- ✓ QMEMSと半導体の融合により、小型化・高性能化を先導

#### プレジジョンプロダクツ

- ✓ 独自の精密加工技術で他社にできない商品を創出

### センサー産業機器事業セグメント

#### センシングシステム

- ✓ 健康、スポーツ、医療、設備・インフラ管理分野において高精度センサーをベースとしたまったく新しい形の人や生活に密着したデータを可視化させ活用する、革新的な情報ツールと価値を提供

#### インダストリアルソリューションズ

- ✓ ロボットはエマージング市場における需要の取り込み
- ✓ 捺染・加飾印刷などのラインナップ拡充などによる製品力強化

16

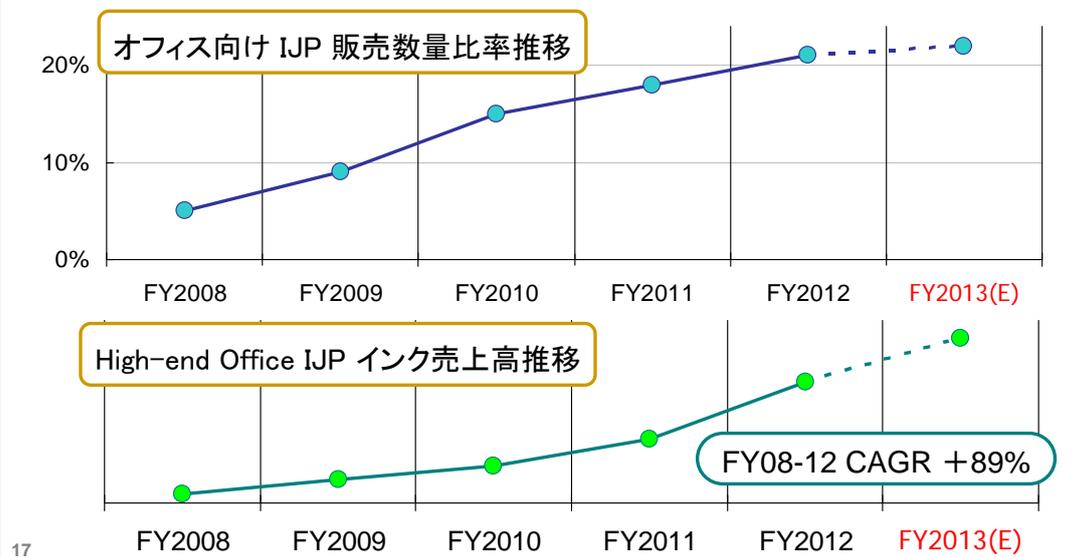
## ■ 2013年度 の取組み

- こちらは、デバイス精密機器とセンサー産業機器。

## SE15後期 中期経営計画の進捗(1)



- オフィス向けIJP本体のMIF増加により中期的な収益基盤を確立する。2012年度は20%越え。2013年度は急激な数量比率拡大は前提とせず、ラインアップ拡充で着実な数量成長とMIF構成の改善を進める。
- High-end Office IJPのインク売上高伸長率は高水準で推移。



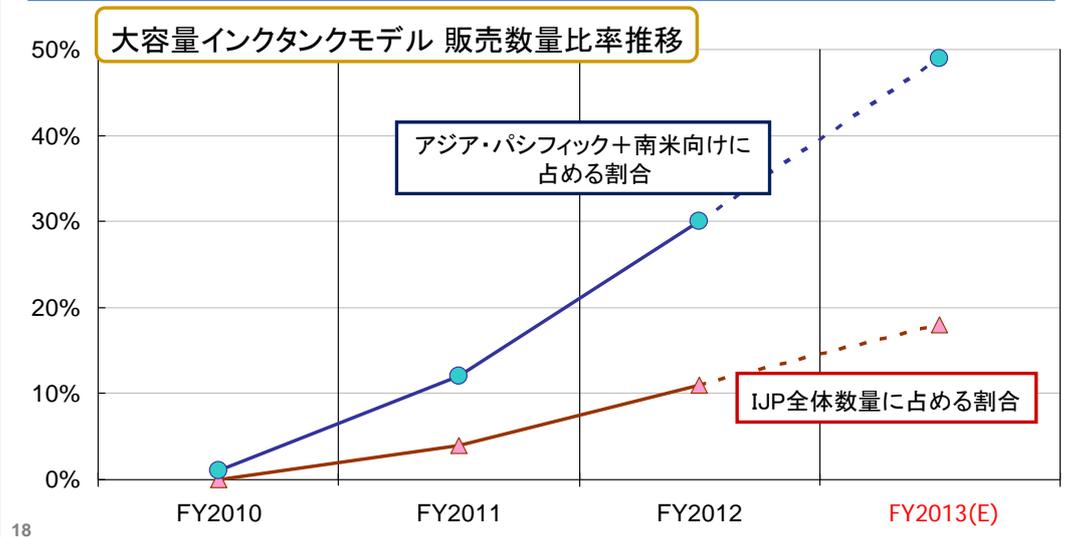
### ■ SE15後期 中期経営計画の戦略の進捗

- スライドに準じ、説明。

## SE15後期 中期経営計画の進捗(2)



- ▶ 大容量インクタンクモデルは、アジアパシフィックや南米を中心に順調に販売が拡大、2012年度下期は同地域の販売数量比率は40%超、2013年度は50%近い水準へ。
- ▶ これにより同地域の利益率は着実に改善方向へ。

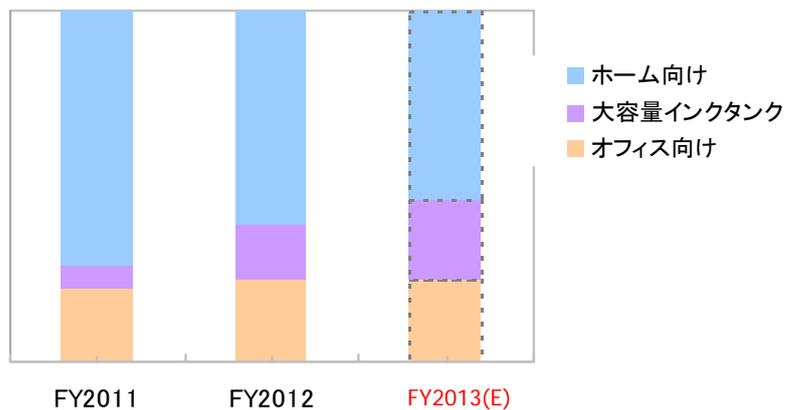


### ■ SE15後期 中期経営計画の戦略の進捗

- ▶ スライドに準じ、説明。

- オフィス向け、ならびに大容量インクタンクモデルの戦略の進捗にともない、本体売上高の中に占める割合が増加。
- ビジネスモデル・商品構成の転換は着実に進行。

モデル別の売上高構成推移



19

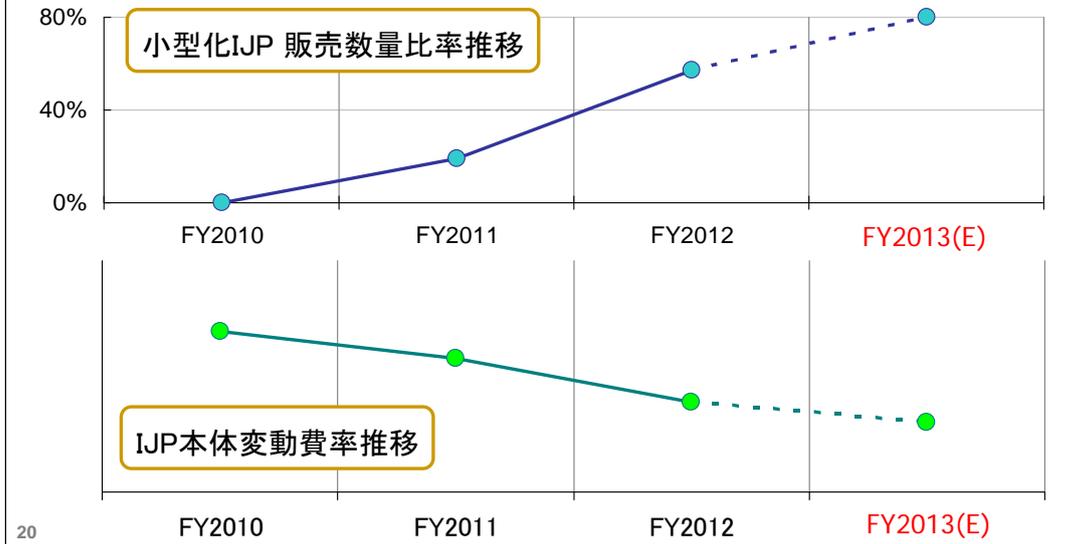
## ■ SE15後期 中期経営計画の戦略の進捗

- スライドに準じ、説明。

## SE15後期 中期経営計画の進捗(4)



- IJP本体小型化モデルの販売比率は着実に拡大し、商品競争力向上の源泉となっている。
- 損益面でも改善効果が表れており、オフィス向け商品の製造が増加する2013年度も着実なコストダウンを見込む。



### ■ SE15後期 中期経営計画の戦略の進捗

- スライドに準じ、説明。

2012年度通期決算  
2013年度業績予想

2012年度  
第4四半期決算

## 決算ハイライト（第4四半期決算）

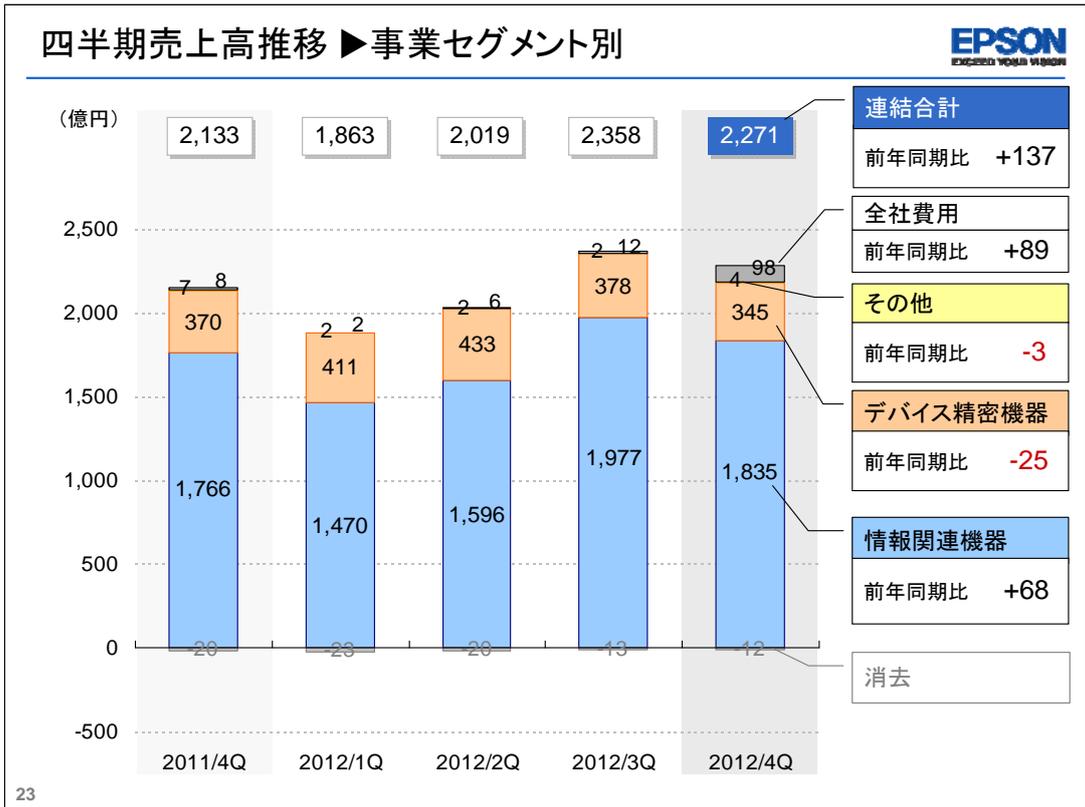


(億円)	2011年度		2012年度		増減	
	4Q実績	%	4Q実績	%	増減額	増減率
売上高	2,133	-	2,271	-	+137	+6.5%
営業利益	35	1.7%	94	4.2%	+59	+168.7%
経常利益	55	2.6%	55	2.4%	-0	-0.7%
税引前利益	70	3.3%	△7	-0.3%	-77	-
四半期純利益	46	2.2%	25	1.1%	-21	-45.6%
EPS	25.90円		14.10円			
換算 レート	USD	79.28円	92.42円			
	EUR	103.98円	122.05円			

22

### ■ 2012年度 第4四半期実績

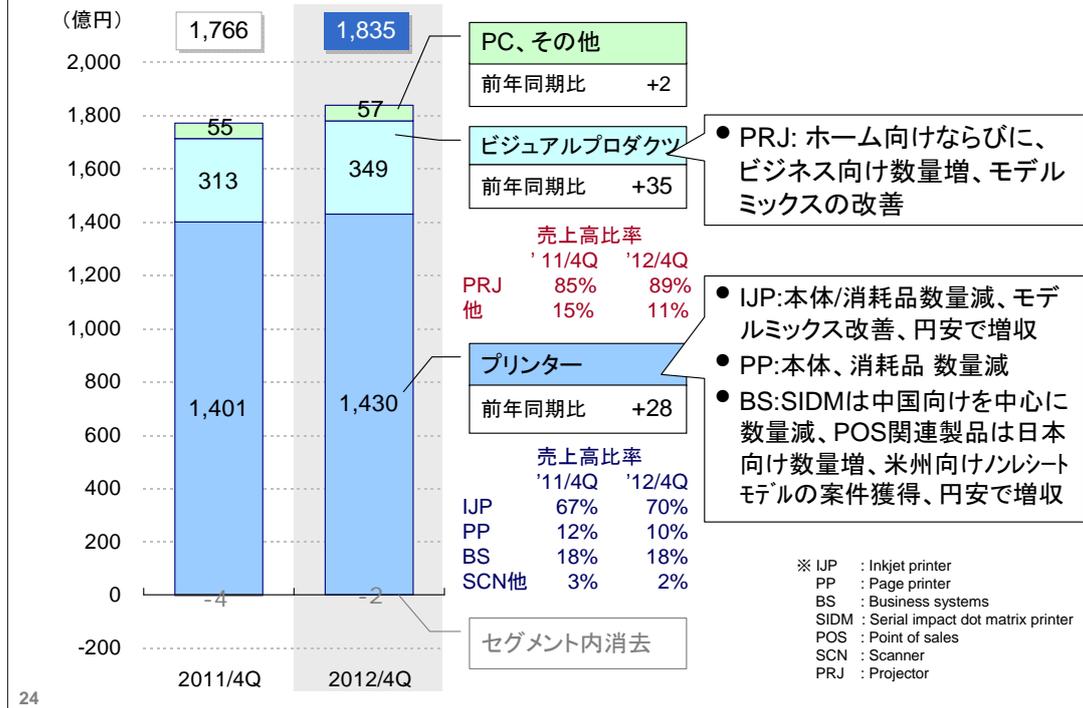
- 売上高は、前年同期比 137億円増収の 2,271億円、  
営業利益は 59億円増益の 94億円、  
四半期純利益は 21億円減益の 25億円。
- 1月31日に発表した前回予想との比較では、  
売上高は、デバイス精密機器が未達となったものの、  
情報関連機器を中心に円安効果があり、  
会社トータルでは、ほぼ予想どおり。
- 営業利益は、円安効果による利益増加があり、  
業績に連動した費用の増加を差し引いて、32億円上回る結果となった。



■ 事業セグメント別の 四半期 売上高推移

- 情報関連機器セグメントは、前年同期比 68億円の増収、デバイス精密機器セグメントが、前年同期比 25億円の減収となったが、全社費用セグメントにおける特許料収入の計上により、会社トータルでは、137億円の増収。
- なお、当四半期の売上高の為替影響は、情報関連機器セグメントを中心に、239億円のプラス影響。

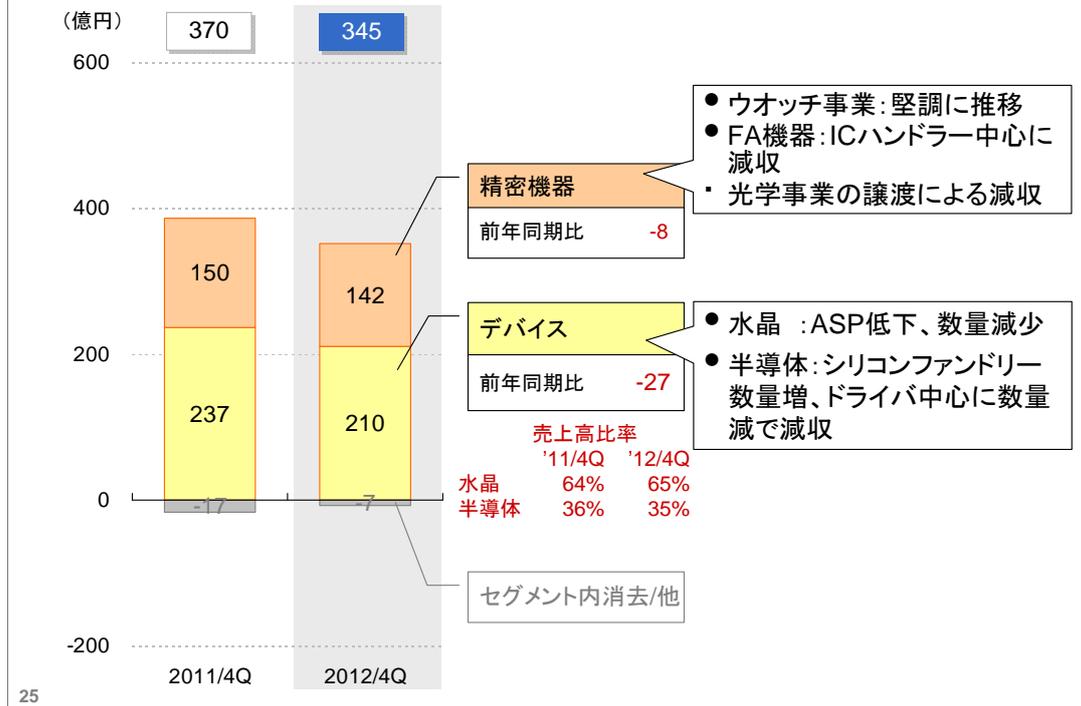
## 四半期売上高比較 ▶ 情報関連機器セグメント



### ■ 情報関連機器セグメントの 第4四半期 売上高

- プリンター事業は、28億円の増収。
- インクジェットプリンターは、本体のローエンドモデルの数量絞り込みや、消耗品が期末販売の平準化により数量減となったものの、本体のモデルミックスの改善に加え、円安効果により増収。
- 本体の地域別状況については、北米ならびに日本市場が前年割れとなる中、当社も全地域において数量減となった。
- ページプリンターは、日本や欧州において、本体ならびに消耗品が数量減となり、減収。
- ビジネスシステムは、SIDMが、中国市場を中心に数量が減少したものの、POS関連製品が、日本における案件獲得による数量増や、米州におけるラベルプリンターやスキャナー付きプリンターなどの案件獲得があったことに加え、為替効果により増収。
- ビジュアルプロダクツは、プロジェクター市場が、北米、西欧の教育需要低迷と、中国市場などで市場拡大の鈍化が見られる中、当社は、HTPSのデバイス外販が減収となったものの、ホームプロジェクターが欧州を除く地域で数量を伸ばしたこと、またビジネス向けは日欧を除く地域において数量を伸ばしたことに加え、モデルミックスの改善に努めたことにより、前年同期比 35億円の増収。
- 前回予想との比較について。
- インクジェットプリンターの売上高は、本体が日本や欧州を中心に数量未達となったものの、消耗品が計画どおりに推移したことに加え、為替の効果もあり、予想を上回った。
- ページプリンターは、数量未達により、予想を下回った。
- ビジネスシステム、ならびにビジュアルプロダクツは、販売数量が未達となったものの、為替の効果もあり予想どおり。

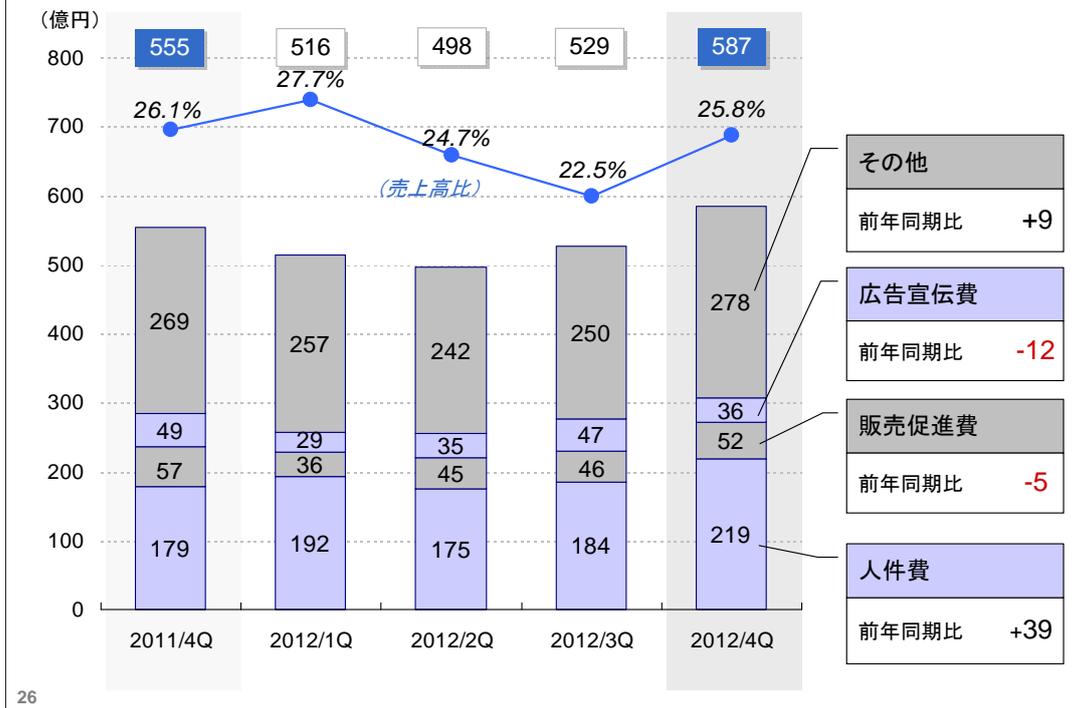
## 四半期売上高比較 ▶ デバイス精密機器セグメント



### ■ デバイス精密機器セグメントの第4四半期売上高

- デバイスは、
  - 水晶が、ASPの低下 ならびに景気低迷による需要の減少により、
  - また半導体が、シリコンファンドリーの受注は増加したものの、
  - ドライバを中心とした数量減により、減収。
- 精密機器は、
  - ウオッチが、高価格帯や国内向け腕時計が堅調に推移したものの、
  - FA機器が設備投資抑制の影響を受け、
  - ICハンドラーを中心に数量減などがあったことに加え、
  - 光学事業の譲渡もあり、減収。
- 前回予想との比較では、FA機器を中心に、未達。

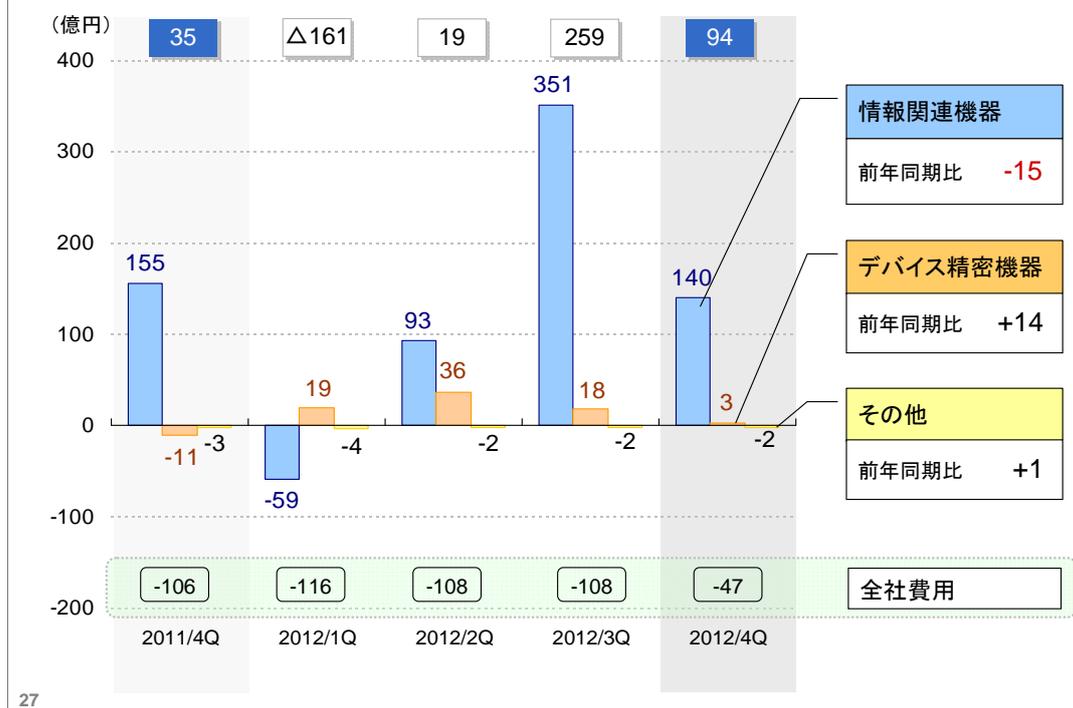
## 四半期販売費及び一般管理費推移



### ■ 販売費及び一般管理費の四半期推移

- 各費用において効率的な執行に努めたことにより、  
 広告宣伝費や販売促進費の減少があったものの、  
 為替の円安による海外人件費の日本円換算額の増加などもあり、  
 前年同期に比べ販売費及び一般管理費の金額は増加。
- なお、売上高販売管理費比率は 25.8%と、ほぼ前年並みの水準。

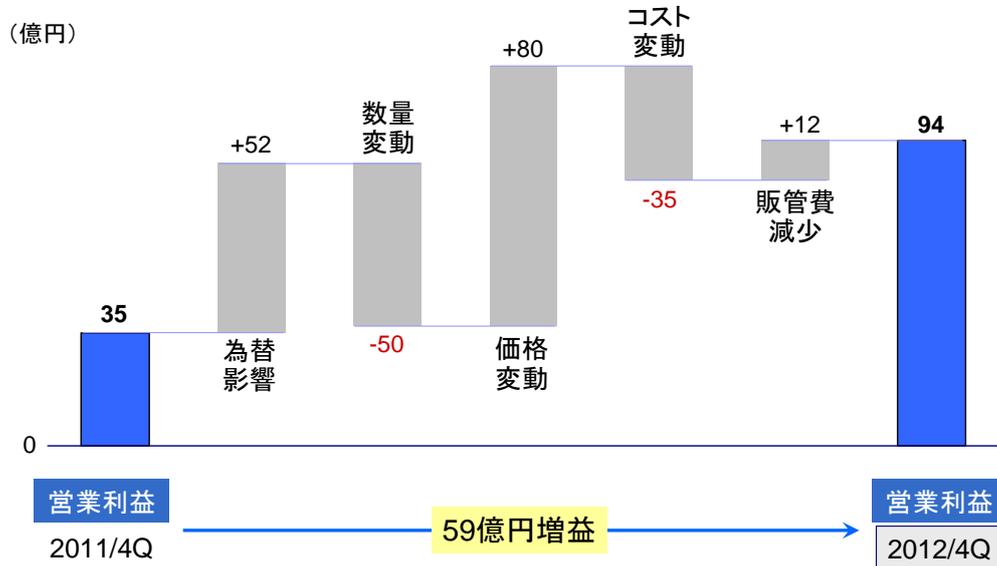
## 四半期営業利益推移 ▶ 事業セグメント別



### ■ 事業セグメント別の 四半期営業利益推移

- 当四半期の為替影響は、約52億円のプラス影響。
- 情報関連機器は、前年同期比 15億円減益の 140億円。
- インクジェットプリンターは、消耗品の減収があったものの、本体の価格維持やモデルミックスの改善に加え、小型化モデル投入によるコストダウン効果などにより、増益。
- ページプリンターは、固定費削減により増益。
- ビジネスシステムは、SIDMの減収により、またビジュアルプロダクツは、デバイス外販の減収影響により、減益。
- デバイス精密機器は、精密機器が減収により減益となったものの、デバイス事業における、コストダウンや要員転換の進捗にともなう固定費削減効果などにより、14億円増益の 3億円。
- 前回予想との比較では、デバイス精密機器が前回予想を下回ったものの、情報関連機器はインクジェットプリンターが予想を上回ったことにより、会社トータルでは、前回予想を上回った。

## 営業利益増減要因分析

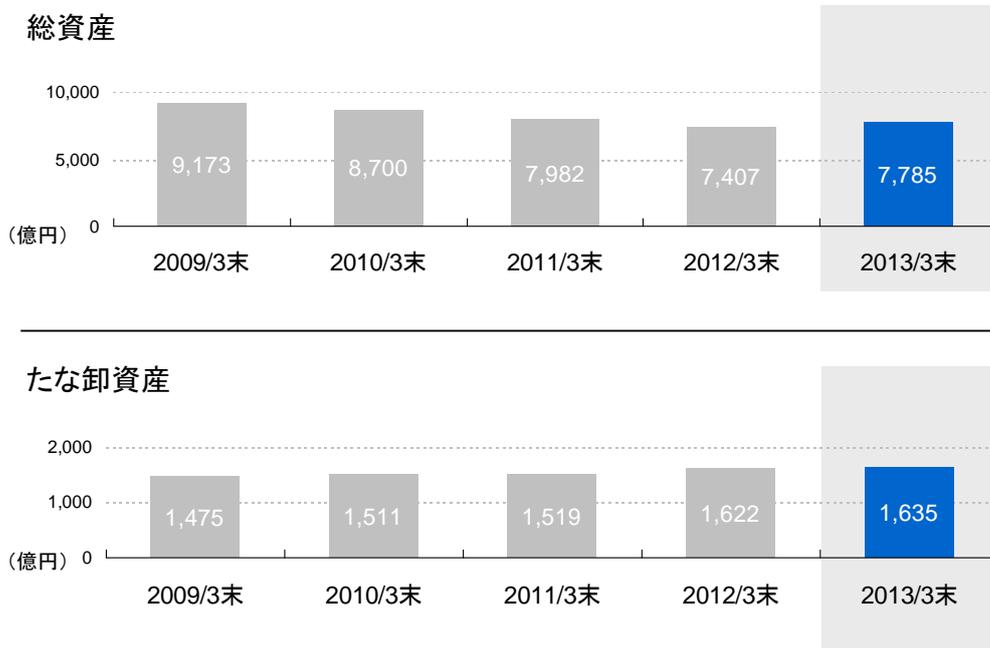


28

### ■ 営業利益の前年同期比の要因分解

- 2011年度 第4四半期の営業利益 35億円 に対し、  
為替影響や、価格変動ならびに、販管費減少などの増益要因により、  
四半期営業利益は 94億円。

## 貸借対照表主要項目推移

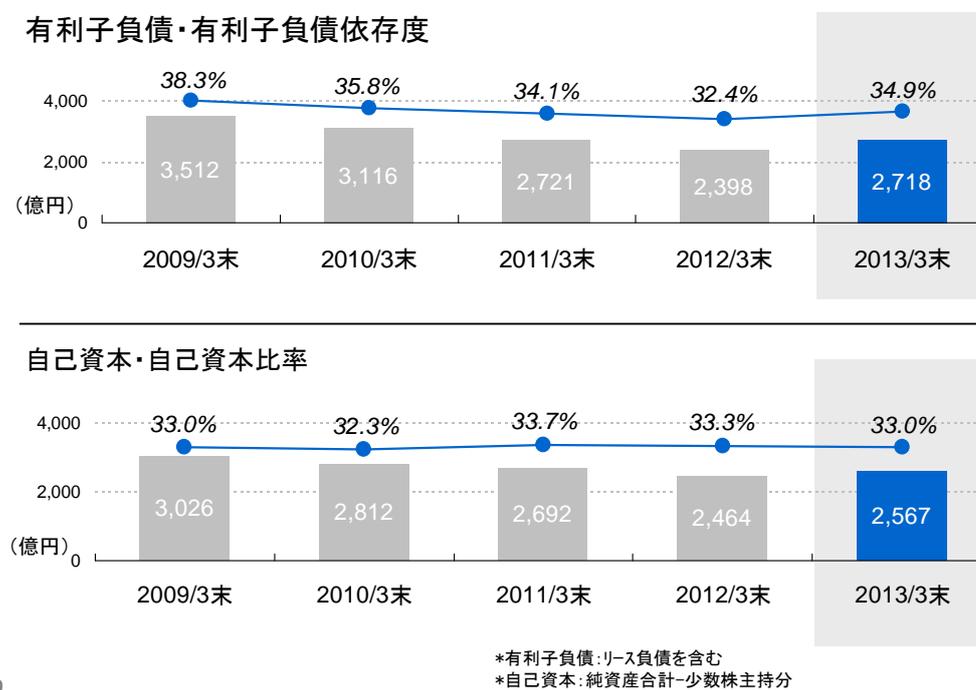


29

### ■ 貸借対照表の主要科目

- 総資産は、  
受取手形および売掛金の減少があった一方で、  
手元資金および有形固定資産などの増加により、  
前期末に比べ 377億円増加。

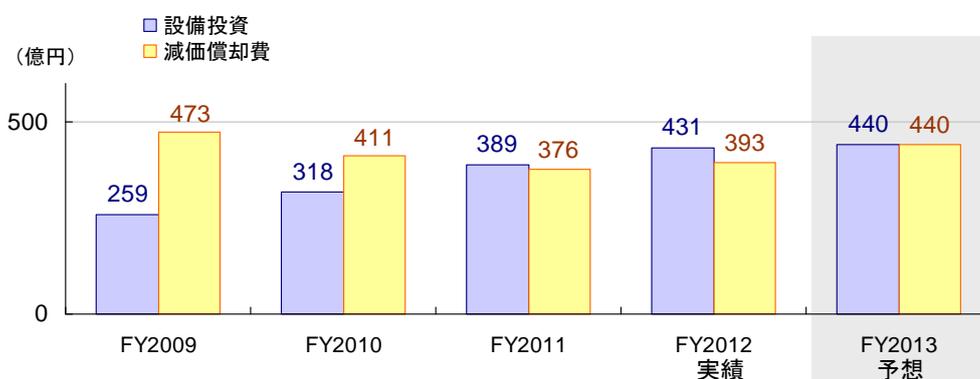
## 貸借対照表主要項目推移



### ■ 貸借対照表の主要科目

- 有利子負債は、  
短期ならびに長期借入金の増加により、  
前期末に比べて319億円増加し、  
総資産の有利子負債依存度は 34.9%。  
ネット有利子負債は 871億円となり、わずかに減少。
- 自己資本は、  
純損失を計上した当期業績に対し、円安による為替影響があり、  
前期末に比べ 103億円増加したが、  
手元資金など、他の資産の増加もあり、  
自己資本比率は 33.0%。

## 設備投資・減価償却費予想



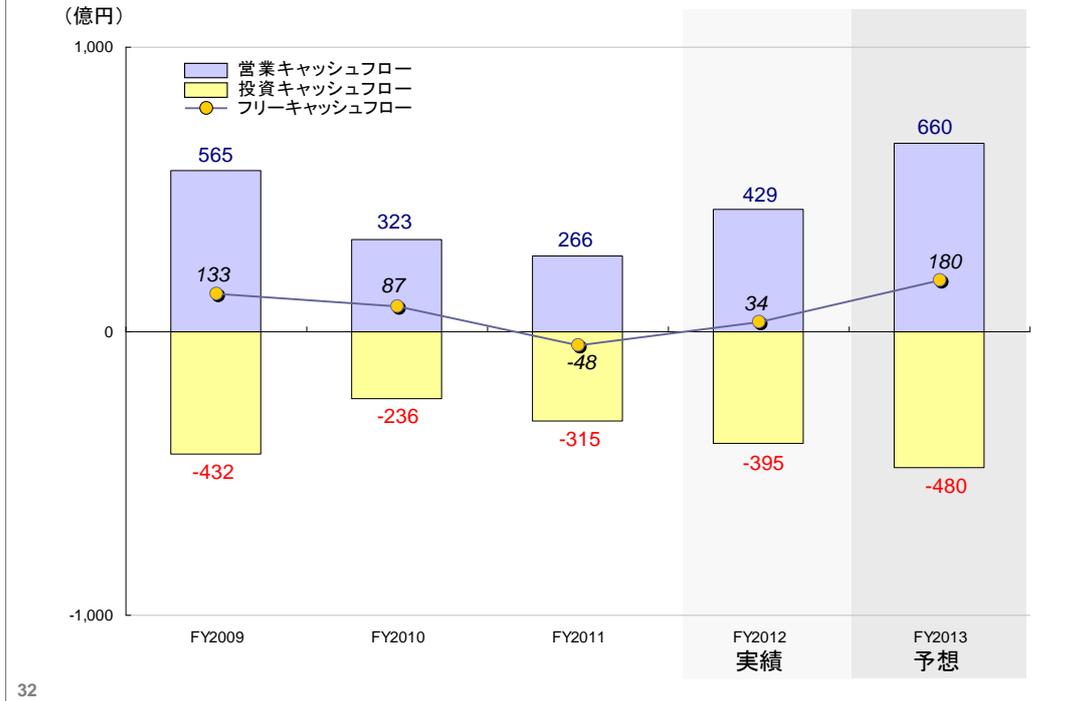
<セグメント別内訳>	FY2012実績		FY2013予想	
	設備投資	減価償却費	設備投資	減価償却費
情報関連機器	334	263	300	310
デバイス精密機器	67	80	110	90
センサー産業機器	5	5	10	10
その他・全社費用	24	43	20	30

31

### ■ 設備投資と減価償却費

- 2013年度は、  
デバイス精密機器における金属粉末の増産投資などをおりこみ、  
会社トータルで440億円を計画。
- 減価償却費は、前年度に比べ増加の440億円を計画。

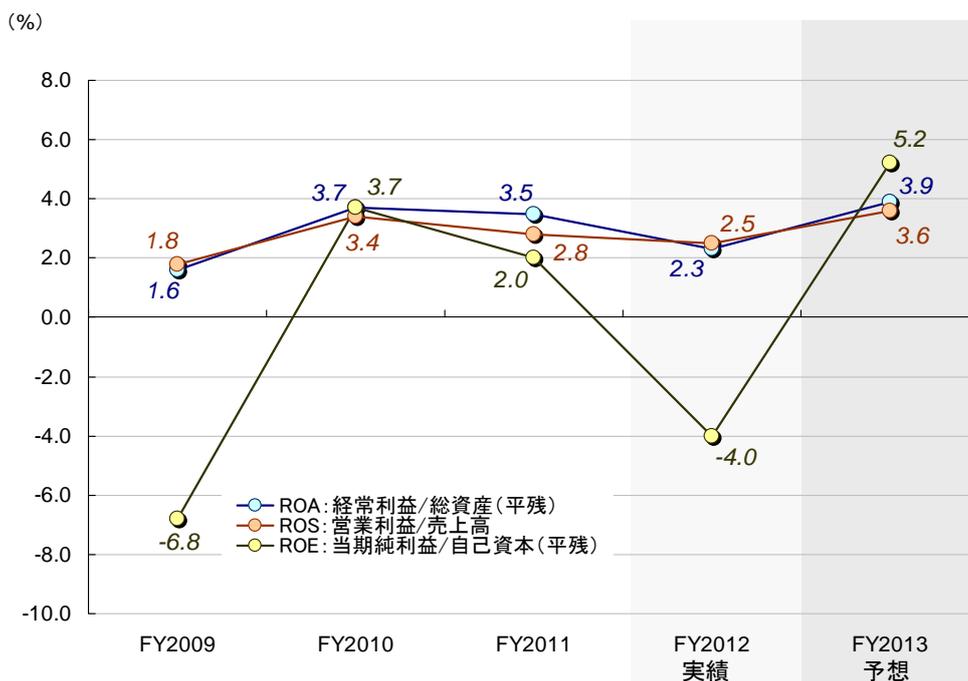
## フリーキャッシュフロー予想



### ■ キャッシュフロー

- 2012年度のフリーキャッシュフローは150億円のマイナスを想定していたが、営業キャッシュフローが、予想為替レートベースでは計画以上に在庫削減を進めたことや、円安効果に伴う海外子会社のフリーキャッシュフローの円換算額の増加に加え、東日本大震災に関わる受取保険金の発生などにより大幅改善したこと、また投資キャッシュフローが投資厳選による削減などにより、フリーキャッシュフローは 34億円のプラス。
- また、前期との比較では、営業キャッシュフローは、たな卸資産の減少などにより163億円増加の429億円の収入、投資キャッシュフローは、有形固定資産の取得による支出などにより79億円増加の395億円の支出。
- 2013年度は、主に、増益による営業キャッシュフローの改善により、フリーキャッシュフローは、180億円を見込む。

## 主な経営指標の推移



33

### ■ 主な経営指標

ROSは 3.6 %、 (営業利益率)

ROAは 3.9 %

ROEは 5.2 %

**EPSON**  
EXCEED YOUR VISION